

ロータリー・ダイジェスト

釧路ロータリークラブ

ロータリー情報委員会

(1984~1985)





ロータリーの綱領

Object of Rotary

ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成することにある；

The Object of Rotary is to encourage and foster the ideal of service as a basis of worthy enterprise and, in particular, to encourage and foster;

1. 奉仕の機会として知り合いを広めること；

The development of acquaintance as an opportunity for service;

2. 実業及び専門職業の道徳的水準を高めること；あらゆる有用な職業は尊重されるべきであるという認識を深めること；そしてロータリアン各自が職業を通じて社会奉仕するために、その職業を品位あらしめること；

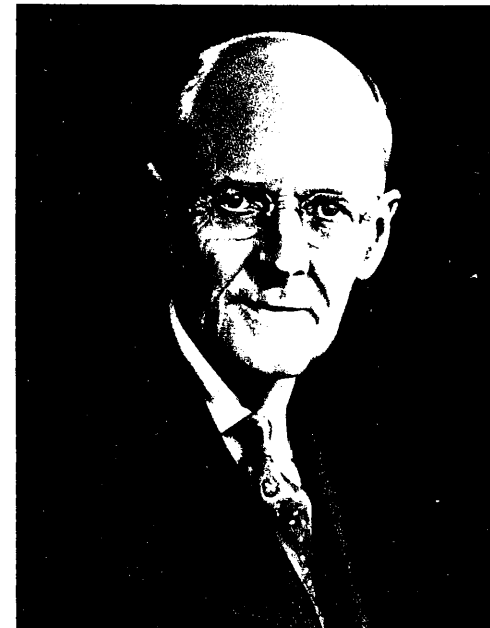
High ethical standards in business and professions; the recognition of the worthiness of all useful occupations; and the dignifying by each Rotarian of his occupation as an opportunity to serve society;

3. ロータリアンすべてがその個人生活、職業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること；

The application of the ideal of service by every Rotarian to his personal, business and community life;

4. 奉仕の理想に結ばれた実業人と専門職業人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること。

The advancement of international understanding, good will, and peace through a world fellowship of business and professional men united in the ideal of service.



ロータリーの創始者：ポール・ハリス

(1868年～1947年)

目 次

ロータリーの定義	1
ロータリーの基本的特色	1
ロータリーの誕生とその歩み	1
ポール・ハリスの略歴	3
ロータリーの綱領とその変遷	4
奉仕の理想について	5
ロータリー活動	6
職業奉仕について	6
社会奉仕について	7
青少年への奉仕の目標	10
国際奉仕におけるロータリーの基本方針	11
ロータリーの特別月間	11
ロータリアンの義務と特権	12
会員候補者の推薦に際して	14
釧路ロータリー・クラブ	15
ロータリー・ソング	18

▲ ロータリーの定義;

ロータリーは、人道的な奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的水準を守ることを奨励し、かつ世界における親善と平和の確立に寄与することを旨とした実業人および専門職業人が世界的に結び合った団体である。

▲ ロータリーの基本的特色;

ロータリーは、奉仕の理想を個人として、また、団体として、現実に適用することを奨励するために、実業人および専門職業人がロータリー・クラブにおいて世界的親交を結ぶ場である。

ロータリーは、奉仕の理想に基づき、世界中の人々の間に理解、親善、平和な関係を推進、奨励、助長することに関心がある。

ロータリー・クラブは、地域社会の生活面を広範に代表し、ロータリーの綱領を推進するために、職業分類に基づき、その会員を選考する。

会員身分の継続には、少なくとも所定数はクラブ例会に出席しなければならない。知り合うことと親睦を永続的友情への第一歩として育むことができるようにするためである。

ロータリー・クラブは会員に個人活動および職業活動において高度の道徳的水準を実証する機会を提供する。

ロータリアンの宗教的、政治的信念は、個人の問題とみなされる。

▲ ロータリーの誕生とその歩み;

1905年2月、田舎から出て来てシカゴで開業したての37歳の若い弁護士ポール・ハリスが、夕食を取るため、行きつけのイタリー料理店、マダムガリに行き、そこで石炭商のシルベスター・シールと会って共に食事をしながら、不況で殺伐とした世相を嘆き、心の底から話し合えるような友達を作りたい、それには職業の違った人が集って会を作るのが一番よい、職業が異れば利害の衝突はないし、却って互いに得意先になって商売も繁昌すると語っていたのを、隣の卓にいた仕立屋のハイラム・ショーレーと鉦山技師のガスターバス・ローアが、これを聞いて加わり、4人で卓を囲んで大いに議論をしたが、なお足りずに近くのディアポーン街ユニティ・ビルのローアの事務所へ席を移して夜遅くまで語りあったといわれる。これが2月23日のことで、明治38年の日露戦争の最中で日本海海戦の数カ

月前のことであった。

当時のシカゴは悪徳と腐敗の街といわれたように、人心はすさみ、犯罪は巷にみちみちていた。場末の裏町に至っては、心のうずくような貧困の光景が随所に目撃された。職は最小限に減じてしまい、スーパー店が到る所にできた。市の公会堂より巡査派出所に至るまで、公共建物は一せいに寒い夜を家なき男女や子供らに提供するため徹夜開放された。獄舎は扉のおさえきれぬまでに充満した。ただそこにつなされるために軽罪を犯すものすら多かつたといわれている。商業道徳も例外ではなく地に落ちていて、競争相手を陥し入れてでも自分の商売を成功させようというような時代でもあったのである。

この4人の会合があった翌日に印刷屋のハリー・ラグルスと不動産のウィリアム・ジェンセンが加わり、3月9日にシールの事務所を連絡所として、3月21日シールを会長とし、ジェンセンが幹事、ショーレーが記録係、そしてラグルスが会計ということでクラブの形態を整えたのである。

クラブの名も初めは「ブースター」といわれていたというが、やがて各自の仕事場を見聞するため会合を持ち回りにし、会長や役員も1年ごとに回り持ちにしていたところから「ロータリー」`Rotary、と名付けられ、隔週1回会合して新聞を読み合ったり、ラグルスが歌をうたうことを始めたりしていたが、後に会員も増してきて1905年6月の第2木曜日からは、レストランのシャーマン・ハウスで開かれるようになった。

このような一業一人制の集まりは、ロータリー・クラブが初めて考えつたものではなく、古くはソクラテスのギリシャ時代にあり、近くは17世紀のはじめ、ロンドンに「ロータ」というクラブがあって、会員が交替に招き合っていたといわれているし、その他にもローティションクラブという同じような会員構成のクラブもあったし、またアメリカのフィラデルフィアには、ベンジャミン・フランクリンがつくった職業別会員制の友好と向上をめざすジャントー・クラブが40年も続いていたといわれている。しかしこれらのクラブは長つづきはしなかったが、このことについて、ポールハリスは、「これらのものとロータリーの違うところは、奉仕の理想を追求する熱意のげしさと強さにあったのだ」と回顧している。ロータリークラブはその後、次第に充実発展して、1908年に2番目のクラブがサンフランシスコにでき、1910年にはアメリカ国内に16のクラブができた。またこの年1910年に国境をこえてカナダに、1911年には大西洋をこえてイギリスにもでき、更に各国にひろがって、1912年にはロータリークラブ国際連合会が組織され、1922年にはこれが「国際ロータリー」`Rotary International、と改められ、現在は158の国家および地域にひろめられ、クラブ数20,647 会員数945,500名(1984.4.30現在)に達し益々拡大の一途をたどっているのである。

▲ ポール・ハリスの略歴；

わがロータリーの創始者であるポール・ハリスは、1868年4月19日、ウィスコンシン州の片田舎に生れた。3才の時にヴァーモントのウォーリングフォードにある、父方の祖父母に引き取られ、そこで大学入学の予備教育を豊かに受けたのである。その後プリンストン大学に学び、次いで1891年にはアイオワ大学法科をも卒業した。彼は将来シカゴにおいて弁護士事務所を開設するまでの5カ年間に旅行によって見聞をひろめようと決心した。先づ彼はサンフランシスコにおいて新聞記者となった。ロスアンゼルスにおいては商業学校の教師を勤めた。カリフォルニアの果樹園でも働いた。デンバーの証券会社にも就職し、コロラドの牧場ではカウボーイにもなった。南部アメリカに移っては、ルイジアナにおけるオレンジ摘みを始め、大理石や御影石のセールスマンにもなった。やがて彼は、家畜船に乗って英国に渡った。スコットランドやアイルランドの大理石、花崗岩の採石を見学し、その後同じ目的の為、ベルギー、イタリーにも渡った。

かくして彼のあてどもなき旅行は、大いにその見聞をひろめ且つ知己を得ることになった。これ等の知友は、後年彼がロータリー創立当時、多くの物質的援助を彼に与えたのである。

1896年に、彼の5カ年にわたる旅行に終止符をうち、やがてシカゴに弁護士事務所を開設することになる。1900年のある日のこと、彼はシカゴの住宅街にあるロジャースパークで、弁護士仲間の友人と会食を共にした。食後、彼はその友人とその辺を散策した。彼の友人は多くの商店商社の経営者に知り合いがいて一人一人彼に紹介したのである。このことあって以来、彼は大いに考えざるを得なかった。自分には事件依頼者があっても友人はいない、これはどうしてもクラブを作り、多くの知友を求め、友情を深めねばならぬ、と決心したのである。

その後、数年間、彼は大いに想を練って、1905年、遂にクラブの創始を決意したのである。彼はこれを三人の友人に計り、1905年の2月23日ここにこのささやかなるクラブは呱呱の声をあげたのである。この一粒の種が、やがて幾何くもなく全世界に展開するなどということは、誰が想像し得たことであろうか。彼はこれを、ロータリー・クラブと命名した。その会場を各職場や事務所を持ち回ったからであった。シカゴ周辺の小さな町や村からもこのロータリー・クラブに集ってくるものもあった。彼等はそこに幾多の友人を求め得たことであった。シール、ホワイトに次いで、三年後に彼が、このロータリー・クラブの会長になった時、彼は大いなる野心に燃えた。それはこのロータリー運動を、シカゴ以外の都市にもひろめようというのである。彼には充分な確信があったのである。

1908年、第2番目のロータリー・クラブがサンフランシスコに生れ、1910年に

は16のクラブがアメリカ各地に誕生したが、ここにおいて各クラブ間の連絡交流を計らんとして1910年8月、シカゴに会合して出来たのが、今の国際ロータリーの前身、全米ロータリー・クラブ連合会である。その後、ロータリー運動はカナダ、イギリスにもひろがり、漸く国際的運動となってきたので、1912年にはロータリークラブ国際連合会と改め、越えて1922年に今の国際ロータリーとなったのである。ポール・ハリスは前二者の初代会長であったが、1947年1月27日79歳で永眠した時には、国際ロータリーの名誉会長であった。

ポール・ハリスは、その全生涯の大部分をロータリー運動に献げたが、他面、彼は熱心な社会事業家であり、弁護士としての職業にも常に熱意を示したのであった。即ち彼は、国際不具児童協会の名誉副会長として盡すところ大なるものがあったのみならず、シカゴ弁護士会の会長として、或いはアメリカ弁護士会の国際委員としても大いに貢献するところがあったのである。又、生前、社会事業家として多くの表彰を受け、ブラジル、チリー、ドミニカ共和国、イカドール、フランス、ペルー等の各国より、夫々名誉ある勲章を下賜されたことも、ここに特記せねばならないのである。

▲ ロータリーの綱領とその変遷；

1905年2月23日に創立されたシカゴロータリー・クラブに、最初に定款ができたのは、翌1906年1月で、その中で綱領として記されていたのは次の2項目である。

① 会員の職業上の利益の増進。

② 親交と社交のクラブに普通付帯する望ましい事柄の増進。

シカゴロータリー・クラブ2代目会長アル・ホワイトが、その友人ドナルト・カーターに入会を勧誘したところ、「そんな内部の利益交換だけで、対社会的意義の欠けているクラブは将来性がない」と言って断わられた。これを聞いてポール・ハリスは直ちに次の項を加えることを提案して、

③ シカゴ市の最善の利益を振興し、会員間に市民としての誇りと忠誠の精神を鼓舞すること。

が加えられた。これを知ったカーターは喜んで入会したといわれている。

ロータリーは創立の時にも、初代会長のシルベスター・シールは、他人の福利ということも考えなければならぬと、言ったというが、ここで漠然とはあるが、その社会的使命をはじめて自覚したといわれている。この綱領は、その後でできた15のクラブでも、そのまま用いられ、シカゴ市というところを、それぞ

れのクラブ所在の都市名におきかえられただけで用いられていた。

1911年に大西洋を越えて、アイルランドのダブリン、ベルファスト、イギリスのロンドン、マンチェスターにクラブができ、名実共に国際組織となった。この年、初めてアーサー・フレデリック・シュルドンの「He profits most who serves best、最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」又、フランク・コリンズの「Service Not Self、後に「Service Above Self、超我の奉仕」の二つが、ポートランド大会に提唱されて、奉仕の考え方が概念として確立された。そしてこれらはいずれも、後の1950年のデトロイト大会で正式なロータリーのモットーとして採択されたのである。

綱領はその後数度の改定を経て、1922年ロスアンゼルス大会で議決されたものは6項目であったが、次に1935年メキシコシティ大会に至って、現在の国際ロータリー定款第3条に記載されている4項目に書き改められたのである。ロータリーの綱領の原文については、表紙の見返しを参照して下さい。

▲ 奉仕の理想について；

ロータリーの綱領の随所に「奉仕の理想」という字句があるが、これは、ロータリーの旗印で、原則的にロータリアン個人の行動実践の理想であり、ロータリー精神とも言われる極めて重要なものでありながら、文献に活字となって目に触れたり、ロータリーソングで歌われたりするため、余り抵抗なく受け流している傾向があり、明確に理解している者は少いように思はれるが、今日のロータリーの基礎を築いたと云われる国際ロータリーの初代事務総長チェスリー・ペリーは次の如く言っている。「ロータリーに於いては、他人に対する思いやりが奉仕の基盤であり、他人に対する援助がその表現であり、この両者の行動実践が相俟って奉仕の理想が形成されるのであるから、「奉仕の理想」とは、他人に対する思いやりと援助である」と。

ところで、この思いやりと援助の気持ちは、何か奉仕しなければならないと言う義務感情的な善意の表現ではなく、日常生活において、極く自然に心情の底から湧き出す善意の潑露であるべきであり、それが何かの見返りや報酬を期待してなされた時は、それは既に善意の範囲から逸脱したものになってしまうことを銘記すべきである。

▲ ロータリーの活動；

ポール・ハリスは「ロータリーの理想と友愛」の中で次のように語っている。

「ロータリーの活動は公私の両面にわたる広汎なる奉仕の全野をおおうものであって、個々クラブ会員は各自独特なる嗜好と傾向とに従って適宜なる奉仕を選択し得るものである。是認せられたる諸種の活動の全体に向ってその身を捧げると言うようなロータリアンは、或いは多く見ることは出来ないかも知れぬ。しかし完全円満なるロータリアンは必ずや最良の市民にして、その郷土としている社会の至宝たるを失わない。そしてロータリーの指導者といわれる程の人は大抵この種の人材である。

完全円満なるロータリアンの関心は常に次の諸項にあるのである。

第1, クラブ奉仕— 所属クラブの会務に関する事項。

第2, 職業奉仕— 所属業界の倫理的向上に関する事項。

第3, 社会奉仕— 所属社会の福祉増進に関する事項。

第4, 国際奉仕— 国際的親善理解の助長増進。

エディンバラのステフェンソン博士は曰く、真個の目的は唯一つである。それは人生を支配する最も適切なる原動力として奉仕の概念を発揚することであると。現在われらが目的と呼んでいる若干のものを、彼は唯一の目的を達成するための手段方法と考えているのである。国際ロータリー事務総長ペリーは、奉仕をもってロータリーの基本大道となし、四個の主要機能はその基本大道を構成する通路であるとなしている。

ロータリーの目的の主張は勧告であって禁制ではない。消極的でなくして積極的な生活の奨励である。もし会員が称讃せられるとせば、これひとえに彼等の実際上の行為によるものであって、決して彼等の言語によるものではない。

▲ 職業奉仕について；

Vocation (職業) という言葉は社会人の「一定の業務、稼業、専門職業、或は職務」を指すものである。ロータリーは、職業奉仕という言葉を使用するに当たって、Service (奉仕) という文字をその一番広い意味で使っており、単に実業或は専門職業界における取引によってなされた業務或は売られた商品を指すのみでなく、相手の必要と境遇に対して正当な考慮を払うとともに常に他人に対し思いやりの心をもって当たることも指しているのである。

職業奉仕はロータリーの綱領において次のような言葉によって強調されている：

実業および専門職業の道徳的水準を高めること：あらゆる有用な職業は尊重されるべきであるという認識を深めること：そしてロータリアン各自が職業を通じて社会に奉仕するためにその職業を品位あらしめること：を鼓吹育成する。

別の表現をすれば、職業奉仕は、職業の世界において、奉仕の理想を推進することを目的とするものである。すなわち、職業奉仕は、

・個々のロータリアンが、その職業関係のすべてにおいて — 従業員、競争業者、顧客および仕入先との関係において高い道徳的水準を適用し、かつ、

・ロータリアン各自がこの水準を、自分と職業を同じくする他のすべての人々の間に推進することを意味するのである。

▲ 社会奉仕について；

最初のロータリー・クラブが誕生した早期より、ロータリアンは、自己の地域社会に奉仕することに深く携わってきた。各ロータリー・クラブの歴史には、その所在地を問わず、ロータリーの綱領の第3項を実行に移しているプロジェクトが数多く記録されている。

ロータリアンすべてがその個人生活、職業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること。

1981年度版までの手続要覧に掲載されていた決議23—34の本文が、今回(1984年度改正版)の手続要覧には綱領の第3項を除いて削除されているが、参考のために次に掲げる。

社会奉仕に対するロータリーの方針は、1923年国際大会に於て採択され、その後の国際大会に於て改訂された決議23—34に述べられている。

決議23—34の本文

ロータリーにおいて社会奉仕とは、ロータリアンのすべてがその個人生活、職業生活、および社会生活に奉仕の理想を適用することを奨励、育成することである。

この奉仕の理想の適用を実行することについては、多くのクラブが会員による奉仕にその機会を与えるものとして、さまざまな社会奉仕活動を進めてきている。以下に掲げる諸原則は、ロータリアンおよびロータリー・クラブの指針として、また、社会奉仕活動に対するロータリーの方針を明確に表わすものとして適切であり、また管理に役立つものであることを認め、これを採用するものである。

1. ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間につねに存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕―「超我的奉仕」―の哲学であり、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践倫理の原理に基づくものである。

2. 本来ロータリー・クラブは、実業人および専門職業人の代表として、ロータリーの奉仕の哲学を受け入れ、次の四つのことを実行することを旨としている人々の集まりである：まず第一に、奉仕の理論が職業および人生における成功と幸福の真の基礎であることを団体で学ぶこと：第二に、自分たちの間においても、また地域社会に対しても、その実際例を団体で示すこと：第三に、各人が個人としてこの理論をそれぞれの職業および日常生活において実践に移すこと：そして第四は、個人として、また団体としても大いにこの教えを説き、その実例を示すことによって、ロータリアンだけでなく、ロータリアン以外の人々のすべてが、理論的にも実践的にも、これを受け入れるように励ますことである。

3. 国際ロータリーは次の目的のために存在する団体である：(1)ロータリーの奉仕の理想の擁護、育成および全世界への普及：(2)ロータリー・クラブの設立、激励、援助および運営の管理：および(3)一種の情報交換所として、各クラブの問題を研究し、また、強制でなく有益な助言を与えることによって各クラブの運営方法の標準化をはかり、社会奉仕活動についても、すでに広く多くのクラブによってその価値が実証されており、国際ロータリーの定款に掲げられているロータリーの綱領の趣旨にかない、これを乱すようなおそれのない社会奉仕活動のみによって、その標準化をはかること。

4. 奉仕するものは行動しなければならない。したがって、ロータリーとは単なる心構えのことをいうのではなく、また、ロータリーの哲学も単に主観的なものであってはならず、それを客観的な行動に表わさなければならない。そして、ロータリアン個人もロータリー・クラブも、奉仕の理論を実践に移さなければならない。

そこで、ロータリー・クラブの団体的行動は次のような条件の下に行なうように勧められている。いずれのロータリー・クラブも、毎年度、何か一つの主だった社会奉仕活動―それもなるべく毎年度異なっていて、できればその会計年度内に完了できるようなものを、後援するようにすることが望ましい。この奉仕活動は、地域社会が本当に必要としているものに基づいたものであり、かつ、クラブ全員の一致した協力を必要とするものでなければならない。これは、クラブ会員の地域社会における個々の奉仕を奨励するためにクラブが継続的に実施しているプログラムとは別に行なわなければならない。

5. 各ロータリー・クラブは、クラブとして関心があり、またその地域社会に適した社会奉仕活動を自主的に選ぶことについて絶対的な権利をもっている。しかし、いかなるクラブも、ロータリーの綱領を無視したり、ロータリー・クラブ結成の本来の目的を危うくするような社会奉仕活動を行なってはならない。そして国際ロータリーは、一般的な奉仕活動を研究し、標準化し、推進し、これに関する有益な示唆を与えることはあっても、しかし、どんなクラブのどんな社会奉仕活動にせよ、それを命じたり禁じたりすることは絶対にしてはならないものとする。

6. 個々のロータリー・クラブの社会奉仕活動の選択を律する規定は別に設けられていないが、これに関する指針として以下の準則が推奨されている：

a) ロータリーの会員の数には限りがあるので、ロータリー・クラブは、市民全体の積極的な支持なくしては成功し得ないような広範囲の社会奉仕活動は、ほかに地域社会全体のために発言し、行動する適当な市民団体などの存在しない土地の場合に限り、これを行なうこととすべきであり、商工会議所のある土地では、ロータリー・クラブはその仕事の邪魔をしたり、横取りをしたりすることのないようにしなければならない。しかし、ロータリアンとしては、奉仕を誓い、その理念の教えを受けた個人として、その土地の商工会議所の会員となって活躍すべきであり、また、その土地の市民として、他の善良な市民といっしょに、広くすべての社会奉仕活動に関与し、その能力の許す限り、金銭や仕事のうえでその分を果たすべきである。

b) 一般的に言って、ロータリー・クラブは、どんなりっぱな事業であっても、クラブがその遂行に対する責任の全部または一部を負う用意と意思のない限り、その後援をしてはならない。

c) ロータリー・クラブが奉仕活動を選ぶ場合に宣伝をその主たる目標としてはならないが、ロータリーの影響力を拡大する一つの方法として、クラブがりっぱに遂行した有益な事業については正しい広報が行なわれるべきである。

d) ロータリー・クラブは、仕事の重複を避けるようにする必要があり、総じて、他に機関があり、それによってすでにりっぱに行なわれている事業に乗り出すようなことをしてはならない。

e) ロータリー・クラブの奉仕活動は、なるべく現存の機関に協力する形で行なうことが望ましいが、現存機関の設備や能力が目的の遂行に不十分である場合には、必要に応じ、新たに機関を設けることにしても差しつかえない。

ロータリー・クラブとしては、新たに重複した機関をつくるよりも、現存の機関を活用することの方が望ましい。

f) ロータリー・クラブはそのすべての事業において、宣伝者としてすぐれた

はたらきをし、多大の成功を収めている。ロータリー・クラブは地域社会に存在する問題を見つけ出すことはしても、それがその地域社会全体の責任にかかわるものである場合には、単独でそれに手を下すようなことはしないで、他の人々にその解決の必要を悟らせる努力をし、地域社会全体にその責任を自覚させて、この仕事がロータリーだけの責任にならないで、本来その責任のある地域社会全体の仕事になるようにしている。また、ロータリーは、事業を始めたり、指導したりするが、一方、当然それに関心を持っていると考えられる他のすべての団体の協力を得るように努力すべきであり、そして、当然ロータリー・クラブに帰すべき功績であっても、それに対する自分の方の力を最小限度に評価して、そのすべてを協力者の手柄にするようにしなければならない。

g) クラブがひと固まりとなって行動するだけで足りるような事業よりも、広くすべてのロータリアンの個々の力を動員するものの方がロータリーの精神によりかなっていると言える。それは、ロータリー・クラブでの社会奉仕活動は、ロータリー・クラブの会員に奉仕の訓練を施すために考えられたいわば研究室の実験としてのみこれを見るべきであるからである。(セント・ルイス大会決議23—34、デンバー大会決議26—6によって改訂：アトランティック・シティ大会決議36—15、およびアトランティック・シティ大会規則制定51—9、トロント大会決議64—43、デンバー大会決議66—49)

▲ 青少年への奉仕の目標；

次の目標が、クラブの参考案として承認されている：

- 1) 大人への成長過程にある青少年に影響を及ぼす都市および農村の状況と要素を実際に即して知り、理解しようとする事。
- 2) 青少年にとって(a)健康体、(b)均衡のとれた教育、(c)精神的資質の涵養、(d)職業の賢明なる選択および、(e)十分な職業予備教育がいかに重要かを認識すること。
- 3) ロータリー・クラブ並びに個々のロータリアンに対し青少年関係の活動を奨励すること。ロータリアンは青少年活動の最高の適格者であり、青少年活動を通じて最大の奉仕を行うことができる。
- 4) 地域社会に対して個人の負う責務を認識することを通じて青少年に善良な市民精神を鼓舞すること。これによってのみ、地域社会の一員たる特権が保持されるのである。
- 5) 青少年の心の中に世界状況の理解を育み、自国ばかりでなく他国の国民に

対しても適正な態度を取るよう推進すること。

6) (a)ロータリアンと青少年との個人的接触、(b)年代の異なるグループ、例えば青少年と成人とか青少年と両親といったグループ間の意思疎通をはかることに関する研究、および(c)他国の青少年との直接、間接の接触を実現するための手段方法の促進をはかること。

▲ 国際奉仕におけるロータリーの基本方針；

ロータリーの国際奉仕の目ざしていることは、奉仕の第4部門に表現されている；すなわち、「奉仕の理想に結ばれた実業人と専門職業人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進する」

自由、正義、真実、宣誓の神聖、人権尊重は、ロータリーの原則に本来備わっているものであり、また、国際平和と秩序の維持および人類の発展に不可欠である。

▲ ロータリーの特別月間；

それぞれ次のように定められている。

a) 青少年活動月間 (Youth Activities Month) 青少年活動月間は、毎年9月に実施される。この月間中、ロータリー提唱のすべての青少年活動に焦点を当てるものとする。

b) 職業奉仕月間 (Vocational Service Month)

理事会は、クラブだけでなく、各ロータリアンも、職業奉仕の理想を日常実践するように強調するために、毎年10月を特に職業奉仕に焦点をしばったプログラムを行う「職業奉仕月間」と定めた。

c) 米山月間

毎年10月に行はれる日本だけの特別月間である。日本の大学院（地域によっては大学）に留学する外国人学生、とくにアジア地域の学生のための奨学金事業の推進に協力するための月間である。

d) ロータリー財団月間 (The Rotary Foundation Month)

理事会と管理委員会は、次のことを決定した。；毎年11月中、「ロータリー財団月間」を遵守すること；月間中、クラブは少くとも一つのクラブ・プログラムを財団に当て、さらに財団の目標に合致するプロジェクト案を事務長に提出する

よう要請されている。また月間について適切な報道機関すべてに発表すること。

e) 世界理解月間 (World Understanding Month)

「世界理解月間」は特別月間として毎年2月に実施される。同月間中、クラブは世界平和に不可欠なものとして、理解と親善を特に強調するクラブ・プログラムと活動を実施し、世界社会奉仕を中心としたプログラムを行うよう要請されている。

f) 世界理解と平和の日 (World Understanding and Peace Day)

2月23日は、最初のロータリー・クラブ会合が開かれた記念日であり、世界理解と平和の日として遵守されている。各クラブは、この日、ロータリーの国際理解と友情と平和への献身を特に認め、強調しなければならない。

g) ロータリーの雑誌月間 (Rotary's Magazin Month)

毎年、4月は「雑誌月間」に指定され、クラブはその月間中に、雑誌に関するプログラムを実施しなければならないことになっている。このようなプログラムを作成するための資料は、中央事務局雑誌部から提供される。

▲ロータリアンの義務と特権;

ロータリアンの義務については、クラブ定款の第11条に明らかに示してある。即ち「会員は、入会金と会費を支払うことによって、綱領の中に示されたロータリーの原則を受諾し、本クラブの定款・細則に従い、その規定を遵守し、これに拘束されることを受諾するものとする。そしてこれらの条件の下においてのみ、会員は、本クラブの特典を受けることができる。いかなる会員も、定款・細則の印刷物を受取らなかったことを理由として、定款・細則の遵守を免れることはできない。」とある。このうち出席義務については、クラブ定款第8条第5節に詳細に述べられてあるが、殆ど罰則のない寛大なロータリーの規則にも、こと出席に関しては相当きびしい規定がある。即ち次の何れかに該当すると、理事会が正当な理由があるとして認めない限り、その会員の身分は自動的に終結する、つまり退会となるのである。

a) 連続4回、本クラブに欠席し、しかもその欠席を補填(メイクアップ)をしない会員。そして、いずれの会員も、各半期間に開かれた所属クラブの例会総数のうち少なくともその30パーセントに出席することを要するものとする、とある。

b) クラブ年度前後それぞれ6カ月間において出席率(メイクアップを含む)が60パーセントに達しない会員。

ポール・ハリスは、自分の創ったシカゴロータリー・クラブの例会に出席すると、

「童心にかえることが出来る、と言ったそうであるが、つまり、ロータリーの例会の一時間は、会員にとって息ぬきの時間で、毎日の仕事のために緊張した心も身体も本当にリラックスする。しかもこの時間は競争者も監督者もない世界で何らの警戒心を必要としない。ここで始めて我に帰り、反省すると共に本来の自分をとりもどすことが出来る。又、それによって人間性を回復して、他人のことや社会の問題等を考える余裕が出来、心の片隅にあった善意の芽は育ち、奉仕を実行に移す決意も生れる。ロータリアンの義務の第一は出席である、と言われる理由もここにあると思う。一週間に一度、自分のクラブに出席し、このような気持を味あわない限り、ロータリークラブに入った意味はなく、又、もう一つの大切な義務である奉仕に対する原動力も生れてこないと思うのである。

次に特権であるが、先づ第1に、ロータリー・クラブに入会することによって全世界90万余の品性高潔、事業上令名ある親友を得ることである。一度ロータリアンともなれば、地球上如何なる処に行っても、心からなる親交を受けることができる。自己の属するクラブ内では勿論である。ロータリアンの交りには偽りはない。邪悪の影は見るべくもない。利害にわずらわされることもない。そこに光こそあれ、暗さはみじんもない。

第2にはロータリアンであるがため得られる信用である。ロータリアンの間では勿論、一般世人からもロータリアンであるというがための絶大な信頼を得ることができる。これが種々の形の特権になって現われる。第3に、ロータリー活動を通じて自らが、社会に、職業に、国際的に奉仕し得るということである。自ら独りの手では不可能なことも、ロータリーを通じてならば出来ることがある。奉仕しなければならない、と考えれば義務となるが、奉仕が出来るのだと思えば、これも特権とも考えられる。

尚、会員(正会員)の権利として更に次の項目が挙げられる。第4、職業分類を代表する。第5、クラブのいかなる役職にもつくことができる。(R. I. 細則で資格条件がある。)第6、投票権をもっている。第7、クラブに属するすべての資金その他の財産に対して、関与権が与えられる。第8、参加を奨励されているあらゆる会合に出席できる。第9、すべての会員すなわちディショナル正会員を含む正会員、シニア・アクティブ会員、パスト・サービス会員、名誉会員を推薦することができる。第10、シニア・アクティブ会員になることができる。第11、パスト・サービス会員になることができる。第12、名誉会員になることができる。但し、この資格はロータリーの理想推進に著しい功績のあった人だけに限定される。第13、クラブの各会員はロータリアンとして知られ国際ロータリーの徽章、バッジまたはその他の記章を佩用する権利が与えられる。第14、クラブ定款第8条第6節による会員身分の終結に関し、自分の立場

を釈明することができ、また、本クラブに提訴もしくはクラブ定款第12条に定める仲裁に訴えることができる。尚このことに関して、仲裁においては、裁定人または仲裁人にはロータリー・クラブの会員のみが指定されることができると定められている。

▲ 会員候補者の推薦に際して;

新会員選挙の手順については、従前「14段階の手続き」といわれていた手順が現在は修正・省略されて、6段階になっていることは、クラブ細則、第11条、会員選挙の方法に詳細に述べられているが、推薦者のつとめとして、是非実行して欲しいことを次に列挙すると、

- ① 候補者に対し、事前に、ロータリー情報 — 特に毎週の例会への出席および委員会活動に対する参加が大切であること、そのためには多少とも時間的な配慮を考えて頂く。尚その際メイク・アップについても説明して下さい。
- ② ロータリー・クラブの会員は、クラブから何事か依頼された場合、慣例として、健康上の理由を除いては「否」と言わないことになっている事を話して下さい。ただし、ロータリー・クラブがあまり負担を強いるような印象を持たれることは好ましくない。ロータリーの基本は、あくまでも「簡素で、平易で、温かい」ものであることを説明して下さい。
- ③ 新会員を、できるだけ多くの会員に個人的に紹介し、早くクラブ会員として融和できるよう助力して下さい。
- ④ 時にプログラムで、イニシェーション・スピーチを指名されることがあるので、その点についても適切な助言を与えておいて下さい。

尚、ここで推薦に際し注意すべきことを記述すると、ロータリーの基本は、原則として一業一会員である。けれども、各業界を代表するような立場の方々ばかりを選んで、会員に推薦するわけではない。ロータリーの活動を通じて向上した人格をもって、各業界に「ロータリーの大使」として帰り、その業界の職業理念を高めていただけのような方をこそ推薦すべきなのである。ロータリーで言う「業界の代表」とは、以上の意味であることを念頭において推薦して頂きたいのである。

次に、ロータリー・クラブは、会員を募集しているのではない。適格な候補者を見つけ出し、推薦し、選挙して入会して頂くのであるから、ただやみくもに増員すれば良いというものではないことは勿論である。従って、推薦者は、当クラブの一員として協調性をもって仲間になってくれる適格な方を、十分見極めた上で推薦して頂きたいのである。義理や、員数合わせのために無理をして推薦した場合、あとで、トラブルの原因になりやすいこともあるので留意して頂きたいと思う。

▲ 釧路ロータリー・クラブ;

日本で始めて東京にロータリー・クラブが設立されたのが、1920年（大正9年）であるから、それより16年後の1936年（昭和11年）11月23日に、我が釧路ロータリー・クラブは札幌ロータリー・クラブと帯広ロータリー・クラブをスポンサークラブとして誕生を見たのである。登録番号は4092で、創立会員（チャーター・メンバー）は次の30名の方々であった。（敬称略）

阿 部 長 三（木材販売）	南 雲 正 朔（弁護士）
藤 井 利 光（ガス供給）	新 田 八 郎（石炭販売）
橋 本 文 平（化粧品販売）	大久保 行 雄（木材加工）
橋 本 辰之助（食料品販売）	長内 丑右エ門（外科医）
飯 田 要次郎（信用組合）	尾 崎 政 範（無尽）
飯 田 実（特殊銀行）	嵯 峨 旻（遠洋漁業）
岩 堀 氏 康（医薬品販売）	嵯 峨 久（魚類販売）
間 瀬 三 郎（石炭採掘）	齊 藤 秀 三（新聞）
森 島 靖 雄（船舶運輸）	清 水 源 作（鉄道）
森 脇 秀 枝（倉庫）	進 藤 毅（仲士）
両 角 栄 治（商工会議所）	田 淵 幸三郎（雑穀販売）
両 角 克 治（百貨店）	滝 本 庄 蔵（内科医）
村 上 祐 二（海産輸出）	丹 波 勝次郎（電力供給）
本 山 英 二（米穀販売）	
内 田 民 治（商業銀行）	
山 下 正 渡（礦油販売）	
梁 瀬 長太郎（酒醸造）	

尚、釧路ロータリー・クラブは、来る1986年、昭和61年11月23日には、創立50周年を迎えるが、この間、第二次世界大戦の激動期を狭み、幾多の苦難を乗り越え、現在の繁栄を見るに到ったことに深い感慨を覚えるものである。

次に創立時より現在に至る歴代会長名を列記する。（敬称略）

年 度	氏 名	職 業 分 類
1936 ~ 37	飯 田 要次郎	信 用 組 合
1937 ~ 38	間 瀬 三 郎	石 炭 採 掘
1938 ~ 39	滝 本 庄 蔵	内 科 医 道
1939 ~ 40	清 水 源 作	鉄
1940 ~ 41	"	"
1941 ~ 42	"	"
1950 ~ 51	長 内 丑右衛門	外 科 医
1951 ~ 52	清 水 源 作	鉄 道
1952 ~ 53	両 角 克 治	百 貨 店
1953 ~ 54	吉 田 利 和	ス テ ヱ ヲ
1954 ~ 55	嵯 峨 晃	遠 洋 漁 業
1955 ~ 56	栗 林 定 四郎	船 舶 代 理
1956 ~ 57	泉 功	民 事 弁 護 士
1957 ~ 58	村 上 祐 二	海 産 輸 出
1958 ~ 59	北 村 藤兵衛	織 維 品 販 売
1959 ~ 60	岩 堀 氏 康	医 薬 品 卸 売
1960 ~ 61	佐々木 正 雄	酪 農
1961 ~ 62	瀬戸山 一 夫	外 科 医
1962 ~ 63	金 子 重 徳	船 舶 代 理
1963 ~ 64	両 角 純 三	百 貨 店
1964 ~ 65	中 山 吉 秀	倉 庫
1965 ~ 66	成 島 鎌 太 郎	塩 販 売
1966 ~ 67	吉 田 恕	鉄 道 運 輸
1967 ~ 68	砂 山 時 男	沿 岸 漁 業
1968 ~ 69	高 後 勉	内 科 医
1969 ~ 70	橋 本 恭 次	砂 糖 卸 売
1970 ~ 71	柳 田 一	自 動 車 小 売
1971 ~ 72	波 谷 一 吉	水 産 物 卸 売
1972 ~ 73	須 貝 寛 一	文 房 具 卸 売
1973 ~ 74	森 口 二 郎	パ ス 事 業
1974 ~ 75	清 水 幸 彦	精 神 科 医
1975 ~ 76	三 原 正 二	商 工 会 議 所
1976 ~ 77	伊 勢 芳 美	寝 具 小 売
1977 ~ 78	樋 口 謙 三 郎	食 料
1978 ~ 79	藤 田 勇	税 理 士
1979 ~ 80	山 下 義 則	書 籍 販 売
1980 ~ 81	岩 堀 等	医 薬 品 卸 売
1981 ~ 82	鈴 木 信 夫	婦 人 科 医
1982 ~ 83	松 本 栄 三	映 画 館
1983 ~ 84	両 角 靖 二	ガ ス 供 給
1984 ~ 85	村 上 敬	金 物 小 売

尚、現在まで、釧路ロータリー・クラブがスポンサー・クラブとなって設立されたクラブは10クラブを数えるが、設立順に記載すると次の通りである。

ク ラ ブ 名	創 立 年 月 日
網走ロータリー・クラブ	1953 (昭和28年) 11. 10
弟子屈ロータリー・クラブ	1957 (昭和32年) 4. 26
釧路北ロータリー・クラブ	1958 (昭和33年) 5. 28
中標津ロータリー・クラブ	1958 (昭和33年) 11. 7
根室ロータリー・クラブ	1959 (昭和34年) 6. 12
白糠ロータリー・クラブ	1960 (昭和35年) 12. 9
厚岸ロータリー・クラブ	1962 (昭和37年) 11. 25
釧路東ロータリー・クラブ	1971 (昭和46年) 7. 13
阿寒湖ロータリー・クラブ	1981 (昭和56年) 5. 13
釧路町ロータリー・クラブ	1982 (昭和57年) 6. 23

又、創立以来我がクラブから、国際ロータリー役員として、嵯峨 晃君 (1965 ~ 1966年度国際ロータリー第350地区ガバナー・故人) 清水幸彦君 (1981 ~ 1982年度第 250 地区ガバナー) の二人が選出されて、それぞれの年度を立派に活躍され重責を果たされた。

当クラブの現在 (1984.7.1) の概況を申し上げますと次の通りである。

会員数 101名 (正会員 66名 シニア・アクティブ会員 35名)

会員の平均年齢	50.21 才
最年長会員年齢	91才
最年少会員年齢	33才
30代	10名
40代	38名
50代	30名
60代	13名
70代	9名
90代	1名

会員の平均在籍年数 10.02 年

尚、当クラブには、32名のロータリー財団ポール・ハリス・フェローと、4名の米山功労者があり、昭和57年6月26日に米山功労クラブとなっている。 以上

ロータリー・ソング

奉仕の理想

元京都RC

作詞 前田 和一郎

元東京RC

作曲 萩原 英一

解説 ♪=112と作曲者は希望して居られますが、
♪=100ぐらいの速度で歌って下さい。力強く、
歌詞は明瞭に。

奉仕の理想に集いし友よ

御国に捧げん我等の業

望むは世界の久遠の平和

めぐる歯車いや輝きて

永久に栄えよ

我等のロータリー

我等の生業

作詞 高野 辰之

作曲 岡野 貞一

解説 ♪=100ぐらいの落ちついたテンポで歌いま
しょう。この歌はとても元気の出る曲です。

一 我等の生業さまざまなれど

集いて図る心は一つ

求むるところは平和親睦

力むるところは向上奉仕

おう ロータリアン

我等の集い

二 奉仕に集える我等は望む

正しき道に果をとるを

人の世挙りて光を浴みつ

力を協せて争忌むを

おう ロータリアン

我等の集い

~~~~~  
それこそロータリー  
~~~~~

東京RC

作詞 矢野一郎
作曲

解説 出そびれぬよう、元気に歌いましょう。
親しみをもって呼びかけ、話かける感じ、強
過ぎぬよう注意して。

- 一 どこで会つても やあと言おうよ
見つけた時にゃ おいと呼ぼうよ
速い時には 手を振り合おうよ
それこそ ローローロータリー
- 二 笑顔笑顔で 語り合おうよ
心で 結び合おうよ
みんな世の為 働き合おうよ
それこそ ローローロータリー
- 三 どの国にも 友が居るよ
みんな一つの 輪になろうよ
同じ心で 親しみ合おうよ
それこそ ローローロータリー

~~~~~  
手に手つないで  
~~~~~

東京RC

作詞 矢野一郎
作曲

解説 二回歌いましょう。強い所(f)と弱く(p)
歌う所に気をつけて、ゆっくりと歌いたいです。

- 一 手に手つないで つくる友の輪
輪に輪つないで つくる友垣
手に手 輪に輪
ひろがれ まわれ 一つ心に
おゝ ロータリアン
おゝ ロータリアン
- 二 手に手つないで つくる友の輪
輪に輪つないで つくる友垣
手に手 輪に輪
ひろがれ まわれ 世界と共に
おゝ ロータリアン
おゝ ロータリアン

誕生日の歌

東京西RC

日本語歌詞 作詞 藤山一郎

解説 くれぐれも遅くならないように二回うたい
ましょう。

おめでとう ロータリアン

おめでとう ロータリアン

この佳き日をば いざ祝おうよ

祝えやいざ 君の誕生日

いついつまでも 健やかなれ

Happy birth-day to you

Happy birth-day to you

Happy birth-day, dear Fellows.

Happy birth-day to you!

日も風も星も

東京世田谷RC

作詞 楠本憲吉

東京世田谷RC

作曲 古関裕而

一 さわやかな朝だ
われらはロータリアン
いつもほほえみ
いつも元気で
さあ出掛けよう
日も風も星もラララ光るよ

二 ほがらかな昼だ
われらはロータリアン
みんな楽しく
みんな胸張り
さあ語りあおう
日も風も星もラララ光るよ

三 みちたりた夜だ
われらはロータリアン
今日は奉仕を
明日も奉仕を
さあ夢見よう
日も風も星もラララ光るよ

R-O-T-A-R-Y

R-O-T-A-R-Y

That spells Rotary;

R-O-T-A-R-Y

Is known on land and sea;

From North to South, from East to West

He profits most who serves the best;

R-O-T-A-R-Y

That spells Rotary.

ROLL ROTARY

Roll Rotary, roll along, roll along !

Roll Rotary, roll along, roll along !

Marching onward upward ever till at last

we reach the heights above,

Roll Rotary, roll along, roll along !

Roll Rotary, roll along, roll along !

Help all men to reach the goal of Rotary ideals.

ROTARY, MY ROTARY

Thy praises high I love to sing,

Rotary, my Rotary,

My homage now to thee I bring,

Rotary, my Rotary.

With friendship, loyalty and cheer,

I'll serve my brothers far and near,

And hold thy precepts ever dear,

Rotary, my Rotary.

あ と が き

此の小冊子は、主として新入会員の皆様に読んで頂きたいと、「手続要覧」、
「ロータリーの友」その他の文献を参考にして抜粋し編集したものです。引用の
詳細については紙面の都合で省略させて頂きましたが、多くの立派な論説を拝借
させて頂きましたことにつきましては、感謝の念を禁じ得ません。文献執筆者各
位に深い敬意を表する次第です。又この小冊子の発行について御理解を賜った
村上敬会長を始め理事の方々、諸先輩の会員の皆様に厚く御礼を申し上げ、この小
著をお読みいただく方々にとって、ロータリーを理解する上でいささかでもお役
に立つことを念願して格筆します。 1984.8.31

ロータリー80周年を迎えるに当り
1984～85年度・ロータリー情報委員会
鈴木信夫・松本栄三・両角靖二

金川路 大. 殿 贈

00.10
10223
ロータリー文庫



四つのテスト —THE FOUR WAY TEST—

言行はこれに照らしてから

of the things we think, say or do

- I 真実か どうか？
is it the truth ?
- II みんなに公平か？
is it fair to all concerned ?
- III 好意と友情を深めるか？
will it build goodwill and better friendships ?
- VI みんなのためになるか どうか？
will it be beneficial to all concerned ?

「4つのテスト」は家庭生活、社会生活、職業生活、
国民として又国際人としての生活において接触する人
々との関係、特に事業並に専門的職業における計画、
方針、声明、広告の原案、政府における立法案の検討
に、又、学校における教師と学生との関係に適用すれ
ば有益である。